

平成 15 年度通常（第 3 回）理事会議事録

日 時 平成 15 年 11 月 29 日（土） 13:00～17:15

場 所 岸記念体育会館内 504 会議室

出席理事（敬称略、順不同）:

山崎達光、井手正敬（委任：山崎達光）、戸田邦司、河野博文、松田健次郎、富田稔、昇隆夫、伊藤宏、大庭秀夫、児玉萬平（委任：山崎達光）、鈴木保夫、棚橋善克（委任：高橋順一）、戸張房子、前田彰一、倭千鶴子（委任：昇隆夫）、高橋順一、稲葉文則、水谷益彦、河内道夫（委任：富田稔）、中山明、吉田豊、柴田友義、小田泰義、西原敏文、岩田行史（委任：山崎達光）、西田昭二、秋山雄治

以上 27 名、内委任状 6 名

出席監事：高田尚之、藤沢誠一

以上 2 名

欠席監事：一條實昭

以上 1 名

オブザーバー：上原一之医事・科学委員長、山田敏雄競技力向上委員長、川北達也ルール委員長、穂積八洲雄国際委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 6 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光会長が平成 15 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言、議事進行を河野博文副会長に委任する事とした。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人としては、議長指名により伊藤宏、稲葉文則の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）

常任委員会活動報告、来年に向けての諸事業の進捗状況や課題などについて所感を述べられ、本日の議題の重要ポイントの説明をされた。又、議事についてスムーズな進行にご協力いただきたいとのご挨拶があった。

なお、諸事業については、「愛知万博に関連したイベントとして、スナイプ、ミストラル、J-24、少年少女の各国際競技会ならびに体験乗艇会を開催することがほぼ決定され、JSAFとして河野副会長を責任者とし、また現地責任者として篠田さんを選任し、今後関係者と協議を進めていくこととなった。費用約 1 億円は、5 千万円を豊田グループが負担し、残り 5 千万円を各団体と JSAF で負担することを予定している。ついでには、レース委員会、ルール委員会および国際委員会など、関係委員会の協力をお願いしたい。」旨、詳細な説明をされた。

<審議事項>

1) 評議員選出方法について

中山総務委員長より、資料に基づき評議員候補選出方法の現状・施行具体案・規定についての説明がされた。引き続き異常務理事より、東京都ヨット連盟の佐藤会長の要望意見などが説明された。議論の結果、加盟団体 62 団体については所属人数にかかわらず各団体 1 名とし、特別加盟団体のディンギー系艇種別団体から総数 1 1 名と外洋系からは外洋系艇種別団体、クラブ等の団体を含む合計 1 7 名を選出することとし、内訳については具体的選出基準を会長に報告してもらい、2 月の理事会で最終承認をすることとし、審議決定された。

2) 役員報酬・退職金及び費用弁済規程について

中山総務委員長より、資料に基づき説明があった。この規程は平成 1 3 年 4 月 1 日施行の(財)日本セーリング連盟役員の費用弁済に関する規定に報酬・退職金に関する条項を新たに付加して平成 1 5 年 1 1 月 2 9 日から施行することで承認された。

3) 特別加盟団体登録申請について

中山総務委員長より、資料に基づき「葉山マリーナヨットクラブ」についての説明があり、すべて条件を満たしている為、国際レース・国内レース主催区分として承認された。

4) 選考レース上告否認承認願

松田アテネオリンピック特別委員長より、「2 0 0 4 年ナショナルチーム選考レース」についての連盟規程 3 に基づく申請が提出され、承認された。

1 4) 監事監査報告、野口会計士中間監査報告

高田監事より、協議事項の議題に関係しているので最初に説明したい旨発言があり、別紙資料監事意見書の説明があった。平成 1 5 年 5 月 2 7 日付監事意見書に従い、平成 1 5 年度の「オリンピック特別会計」と仮払い状況であった平成 1 4 年度分「SS 級指導コーチ派遣費等」につき平成 1 5 年 1 0 月 3 0 日に期中監査を行った。

その結果、平成 1 5 年度の「オリンピック特別会計」については、懸案諸問題が解決していると認めた。また、平成 1 4 年度分「SS 級指導コーチ派遣費等」の収支についての意見を述べられた。

その他、「専務理事の手当」「補助金統括担当理事」「予算策定統括者」「委員会会計」などについての指摘事項が上げられた。

野口会計士より、中間監査指摘事項として 未収入金の処理の件、源泉所得税納付の件、登記の件、理事会議事録の署名人署名日の件、会計処理の修正の件などについて、提出された書面に基づき説明があった。

<協議事項>

1) 平成16年度事業計画・予算について

鈴木会計委員長より、事業計画の土台を早めにきちんと決め、予算案を作成する必要があるため、来年のメイン事業を決め、各担当部署に案内し次回の理事会で審議、3月に決定していく旨説明があった。

2) メンバー増強の件

伊藤会員増強委員長より、普及活動として底辺を広げていけなければならない、「会費のあり方」「各団体の負担金活用方法」「ヨットを知らない方への認知」「JSAFのあり方」などについて、もう一度見直し研究していきたいとの発言があった。

秋山理事より、出来るところから手掛けメンバーを逃がさない様なシステムを検討していくべきとの発言があった。

3) 財務状況改善とITについて

前田IT委員長より、資料に基づき、「JSAFメンバー登録の一本化」の目的、基本方針、今後の検討課題などについて説明があった。各水域の方々に正しい理解と協力をいただくための説明の機会をつくり促進していきたい。まず最初に基本方針に基づいたシステム環境で見積もりを取りたいとの報告があった。

小田理事より、なにもかもIT化に頼りすぎると、メンバーとのコミュニケーションの面でも地域の努力がなくなり、かえってメンバーが減る結果にならないよう注意したい。また、手段の前にJSAF連盟自体が魅力ある団体になっていることこそ大切であり、もっと議論が必要ではないかとの発言があった。

4) セーリングスピリッツ級に関する件

昇国体委員長より、日本体育協会へ平成18年第61回兵庫国民体育大会からの艇種変更(少年男女2種目のSS級導入)依頼を再度提出したとの報告説明があった。

水谷理事より、FJ級は育ち盛りの高校生が減量までしないと勝てないなどという現状により、高校生に適しておらず、将来のヨット界を洞察し新艇種を研究し始めたものであったことを再度確認しておきたいとの発言があった。

<報告事項>

1) ワールドマスターゲーム2009の協力依頼について

松田専務理事より、「ワールドマスターゲーム2009」について、協力承諾の通知を提出しているとの報告があった。

2) 日本水産との商標使用契約について

松田専務理事より、資料に基づき「商標使用権の基本契約書」内容について、説明報告があった。

3) 世界選手権報告

松田アテネオリンピック委員長より、「2003年ワールドチャンピオンシップ(於:スペイン・カジズ)」参加について、成績報告資料を基に成果、今後の強化などを含めて報告された。

4) 役員の任期について

河野副会長より、会長の定年、組織運営の継続性の問題などについて検討している旨報告があった。武村事務局長より、他の団体を調査したところ定年を設けている団体は少なく、文部科学省から定年制の指導があり各競技団体もこのことについて検討中であるが、会長をどうするかはさまざまである。定年の目途は70歳が支配的であるとの報告があった。

5) ニッポンカップスポンサー招待の件

河野副会長より、「ピザラ・牛角2003ニッポンカップ国際ヨット・マッチレース(11月23日<日>/於:葉山マリーナ)」の開催にあたり、普段よりご支援いただいている賛助会員の方々を招待し(約50名参加)観戦しながらセーリングというスポーツと触れ合って戴き、一層のご理解を得られるチャンスをつくれたとの報告があった。

6) 寄附行為変更申請について

富田常務理事より、平成15年10月21日付け「理事の定数について<日セ15-第62号>」申請のあった寄附行為の一部変更の認可が、おりたことの報告があった。

7) 琵琶湖ヨット事故報告

吉田理事より、「ファルコン(艇種:ヤマハ21S)」事故情況報告があった。

8) 日本一周フラッグリレー報告

昇常務理事より、「海をきれいに!安全に!」「海で遊ぼう!Discover Sailing!」「アテネの海に日の丸を!」の三つのフラッグが、日本の70箇所のハーバーに寄港し、一万人の人達に見守られながら、10月5日に無事東京夢の島にゴールしたとの報告があった。

9) 委員会追加予算要求の件

鈴木会計委員長より、674,000円(国際委員会:30万円、国体・SS級役員派遣費:20万円、会員増強委員会:2万4千円、外洋特別委員会:15万円)を予備費扱いで処理することの常任委員会での協議結果報告があった。

10) toto 申請事業について

松田専務理事より、今年是一段と助成額の枠が減ってきており、大変事業の内容からも厳しいので、プライオリティーを決め調整していきたいとの報告があった。

11) 商標更新について

松田専務理事より、「IYRU」の商標更新については、「ISAF」に変わっていることから、継続の必要性はないので更新はしないとの連絡があった。

12) ISAF 総会報告

穂積国際委員より、2003 総会カウンスルは11月13日～15日まで、バルセロナで行われ、380余りの議案に対して採決した。詳細決議はやがてウェブサイトに掲載される。主に「MNA 会費の値下げ」「オリンピックの最終レースは捨てるレースなしとする」など、トピック状況の説明がされた。戸張国際委員長より、各委員会出席者から次回理事会にて報告書が提出される旨、報告があった。

13) 未収金の扱いと予算管理月報について

鈴木会計委員長より、平成14年度決算にて、平成12年以前の未収金については償却済だが、平成14年12月14日の理事会において、回収可能と判断された未収金435,000円は、野口会計士の中間監査において、「平成14年度末に回収可能と判断した長期滞留未収金が、今年度9月までには回収されない徴収不能とすべきものは、会計上の処理をすべきである」との指摘も受けている。常任委員会審議後、回収努力をすると意向があった為、回収担当者を決め依頼することの報告があった。また、10月31日までの予算管理月報状況の説明が資料に基づきされた。

15) 平成16年新年会について

松田専務理事より、平成16年1月23日(金)マツヤサロンにて午後6時より新年会を開催することの連絡と同時に別紙のご案内内容で準備をすることの確認をとった。

16) 年未年始業務と平成15年度今後の日程について

松田専務理事より、日本体育協会とJOCのスケジュールに合わせ、JSAF本部事務局の年未年始業務を平成15年12月27日(土)～平成16年1月4日(日)の間閉鎖することを報告した。また、今後の主な行事予定の確認がされた。

17) 全国安全指導者講習会報告

秋山理事より、11月15日(土)～16日(日)に夢の島マリーナにおいて開催された全国普及安全会議には約100名の参加者を得て実施され、来年に繋がる成果を出せたとの報告がされた。なお、来年度の安全普及の一部事業は、笹川財団で開催される予定となっている。

18) 静岡国体報告

昇国体委員長より、静岡県御前崎、相良両町にて第58回国体夏季大会セーリング競技が行われ、男女総合で昨年に引き続き静岡県が優勝し、大会運営の面においても沢山の一般の方々にも身近にヨットレースを見ていただけ、認知効果のある大会であったとの報告があった。

19) 託児所・チャイルドルーム設置報告

昇国体委員長より、今年の選手・訪問者・役員からのニーズもあり大変好評でした。来年の埼玉国体に向けて、反省を活かし反映させていきたいとの報告があった。

20) 平成15年度共同主催・公認・後援願いについて

戸張レース委員より、「第25回シードスポーツクラス全日本選手権」「レーザーラジ

アル級全日本選手権」「第20回全日本ミストラル級選手権」「第18回全日本外洋ヨット選手権」「第31回ホビーキャット16全日本選手権」「第2回 Beneteau First 40.7 Fleet Japan 全日本選手権」「第29回全日本インターナショナル14級選手権」「Nippon Cup International Yacht Match Sailing」「第3回全日本IFCA級選手権/WFJスラローム選手権」「全日本420級選手権」の大会10件についての承認報告があった。

21) 平成15年11月28日現在のメンバー登録状況

武村事務局長より資料に基づき、11月28日現在のメンバー登録状況について報告があった。加盟団体：9,815名(県連：6,522/外洋：3,293)、特別加盟団体：1,309名、合計：11,124名との発言があった。

22) 平成15年度臨時(第2回)理事会議事録(案)

武村事務局長より、平成15年度臨時(第2回)理事会議事録(案)は、既に議事録署名人の承認はとれているとの報告があった。

23) その他

ルール委員会報告

川北ルール委員長より、11月までに計画された事業活動 ジャッジ・アンパイア、翻訳システムの構築、toto 補助金によるルール講習会開催準備、ISAF 総会への委員派遣、JSAF 主催大会へのジャッジ派遣、加盟団体(特別加盟団体)主催全日本大会へのジャッジ派遣支援などについての報告が資料に基づきされた。

「J-Sailing」協力願い

大山広報委員長より、会報誌の編集にあたり、メンバーの情報提供や普及を図る目的で、「加盟クラス紹介」と「委員会だより」の紙面を構成しており、理事の方からも関係団体等に声をかけ原稿集稿にご協力いただきたいとの依頼文書が提出された。

メンバーのご意見について

松田専務理事より、資料に基づき次のような報告があった。

【日本トッパー協会の川村傳さんが、会報誌を見られて「メンバーが減少してきている」「財政が苦しい」とのキーワードから、「連盟のあり方や理念」を再度明確化してこそ展望があり、セーリング界の意識が統一され、日本の将来のヨット文化像が見えてきて、ヨットを国民のスポーツへの夢にも一歩近づけられるのではないのでしょうか。(1)安全対策の徹底、(2)普及の促進(競技だけでなく生涯スポーツの方面について協調)(3)自然環境との対話(自然にやさしいスポーツであることの認知)、その他、組織力の向上、連携組織の樹立、指導者の養成など等課題は沢山あるようですが、原点に戻る本質論に時間を掛けて論議し直す時期がきているようです。

ーメンバーのご意見を聴いていただき有難うございました。】

< 特別事項 >

上原医事・科学委員会より、平成14年度 JADA 加盟団体ドーピングコントロール
実施状況資料に基づき、説明があった。

平成15年度通常(第3回)理事会議案は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確
認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成15年11月29日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 伊 藤 宏

議事録署名人 理 事 稻 葉 文 則